

聖書日課 『からし種』 2020.1.12-1.19

<p>12日 (日)</p> <p>サムエル下 3章</p>	<p>「会いに来るときは、サウルの娘ミカルを必ず連れてくるように」(13節)。サウルは、ダビデの逃亡後、娘ミカルを別の男性に嫁がせた。ダビデは、他の女性たちと新しい家族をついていた。ここでも父や夫の都合で、女性たちの命が取引されていることが聖書を通して語られる。キリストが私たちにくださった命のものさしで、生きるわたしとされたいと願います。</p>
<p>13日 (月)</p> <p>サムエル下 4章</p>	<p>「ダビデは…言った。『あらゆる苦難からわたしの命を救われた主は生きておられる』」(9節)。ダビデの知らない所で、サウルの子どもの命が奪われていったが、この時のダビデは自分の命が狙われていたとしても、その相手の命を奪うことは許さなかった。ダビデの周りには、争いが絶えなかった。それでもダビデは、命の主にゆだねて生きようとしていた</p>
<p>14日 (火)</p> <p>サムエル下 5章</p>	<p>「ダビデは主に託宣を求めた」(19節)。王としてたてられた後も、ダビデの命は狙われる。しかし、ダビデの命をこれまで救い続けた主に、ダビデは、尋ね求めた。ペリシテ人との闘いは、ダビデの歩みにおいて続いていくが、主の言葉に従って歩むダビデの姿から、私たちも励まされて歩みたい。</p>
<p>15日 (水)</p> <p>サムエル下 6章</p>	<p>「王は直ちに出かけ、喜び祝って神の箱をオベド・エドムの家からダビデの町に運び上げた」(12節)。ダビデは主がウザを打たれたことで主の箱を自分の町に入れることをためらったが、主の箱は災いではなく、祝福の源であることを知り、自分の町に受け入れていった。私たちは主の箱を受け入れることができているだろうか。</p>

聖書日課 『からし種』 2020.1.12-1.19

<p>16日 (木)</p> <p>サムエル下 7章</p>	<p>「主なる神よ、あなたが御言葉を賜れば、その祝福によって僕の家はとこしえに祝福されます」(29節)。主は形だけの主の家を建ててるのではなく、神の御言葉が生きている場所をご自分の家として、建ててくださる。神の御言葉が生きている場所として、主の宮として私たち一人ひとりを主が建てている恵みに応答した歩みに押し出されたい。</p>
<p>17日 (金)</p> <p>サムエル下 8章</p>	<p>「ダビデは王として全イスラエルを支配し、その民すべてのために裁きと恵みの業を行った」(15節)。国の指導者として、ダビデは、主の言葉に従い、主の恵みを知るための裁きを行っていった。2020年は主の恵みの業とはかけ離れた出来事で始まった。力で人を支配する時代、その時代の流れを断ち切って、イエス・キリストの平和は私たちに与えられている。</p>
<p>18日 (土)</p> <p>サムエル下 9章</p>	<p>「あなたの父ヨナタンのために、わたしはあなたに忠実を尽くそう。祖父サウルの地所はすべて返す。あなたはいつもわたしの食卓で食事をするように」(7節)。サウルの息子ヨナタンと命を分かち合ったダビデ。その息子メフィボシエトの命にもダビデは責任を持つことを約束した。ヨナタンとダビデの絆は、息子を通して、ヨナタンの死後も続いていった。</p>
<p>19日 (日)</p> <p>サムエル下 10章</p>	<p>「我らの民のため、我らの神の町々のため、雄雄しく戦おう。主が良いと思われることを行ってくださるように」(12節)。アンモン王に金で雇われたアラム兵は、戦わずしてヨアブとアビシャイの前から逃走した。戦いは「数」ではない。自分の命を賭けるだけの「正義」を持ち得ているかどうか。私たちは何のために誰と戦おうとしているのか。み言葉を前に点検したい。</p>